



視点

「幻の夏期セミナー」から リベンジ!!

2020年3月、模擬授業・分科会が全て決まり、本要項の原稿が仕上がったところで「新型コロナウイルス感染症の蔓延」のため急ぎょ中止となってしまった「幻の鹿児島大会」。しかし、鹿児島たんぽぽサークルの皆さんは立ち上がり、第42回全国夏期セミナーを鹿児島県で開催することを引き受けてくださいました。3年前を思い出しながら、万全の準備をし、当日を迎えるだけでした。しかし、台風6号が接近。直撃の場合、どうするかを担当で話し合い、また「幻」になるのかと一瞬頭をよぎりました。

しかし、鹿児島たんぽぽの皆さんの気持ちが伝わったのか、台風の隙間を縫って全日程を予定通り行うことができました。沖縄県は台風による大きな被害を受けました。そのような中、沖縄県の登壇者、発表者は偶然、那覇から飛んだ便に搭乗することができ、これまた奇跡の瞬間でした。会場に到着したときは拍手喝采でした。帰りも台風が接近する中、皆さん、飛行機や新幹線がストップとなるギリギリでしたが、無事帰路につくことができましたようです。台風に振り回され、スマートフォン片手に天気予報とにらめっこの状態でドキドキしていた大会でした。

台風の影響で、会場からリモート参加に切り替える方がたくさんいらっしゃいましたが、今回のセミナーには会場参加とオンライン参加の方を合わせて430名の方が参加されました。4年前に行われた近畿大会の人数と

ほぼ同じです。やっとコロナ前の状況に戻りました。これからもっと参加者が増え、包括的性教育がさらに広がっていくことを願います。

大会1日目は性教協の歴史を刻んだ堀川修平さんの「基調報告」から始まりました。「記念講演」の荻上千基さんのお話は途切れることなく、なぜ、性教育が攻撃されるのか、その背景を語っていただき、多くの皆さんは頷くことばかりで、納得感満載でした。「理論講座」では、北山ひと美さんから実践をどう根付かせるかの具体的なお話をしていただき、参考になることが多々ありました。「シンポジウム」では3人の実践者から力と元気をいただきました。そして、2日目の模擬授業、分科会では「性教協オンラインプロジェクト」のみなさんの尽力もあり、ハイブリッド開催の利点を活かした充実した発表と討論ができました。発表されたサークルの皆さん、ありがとうございました。この2日間の大会を振り返り、今後の課題を明らかにし、来年の第43回夏期セミナー東海大会in静岡に引き継いでいきたいと思っています。



樋上 典子
(第42回全国夏期セミナー鹿児島大会実行委員長)